



「農福連携事業」 各務原市 はたけサロン



『農福連携』について

みなさん、『農福連携』という言葉をご存じですか？

『農福連携』という新しい言葉が生まれた 2010 年頃は、高齢化による担い手不足や耕作放棄地の増加といった課題を抱える農業の分野で障がい者が就労し、生きがいをもって社会参画するための取り組みや支援を指していました。つまり「障がい福祉」×「農業」の連携です。

その後 2019 年以降、農業活動の種類と効果によって、①“農的活動（訓練やケアが目的）”、②“ゆるやか農業（生産することで報酬を得ることもありますが、社会参加や就労経験を積むことが主な目的）”、③“農業（就農で生計を立てる）”の3つの段階を設けることで、障がい者だけではなく、高齢者、生活困窮者、ひきこもりの方々等も支援の対象者とし、「多様な福祉」×「多様な農業」×「地域振興・地域づくり」を包括的に推進する政策へと変わりました。

また支援対象者が活躍するフィールドについても変化があり、農業だけではなく林業や水産業の分野にも広がりを見せ、それぞれ『農福連携』、『林福連携』、『水福連携』と呼び、またそれらを総称して『農福連携等』と呼ぶようになりました。

各務原市が行う『農福連携事業』とは

岐阜県内で「高齢者の健康づくり」×「農的活動」×「地域振興・地域づくり」を連携させた『農福連携事業』に取り組んでいるのが各務原市です。

各務原市では、地域の高齢者の方を対象に、同じ時間・同じ場所に集まって、共に農作業をしていく中で、人と交流して孤独や孤立を防ぎ、健康維持・増進や生きがいづくりができる集いの場（通いの場）として『はたけサロン』を実施しています。

そんな各務原市の『はたけサロン事業』について、事業主体の各務原市健康づくり推進課の担当係長の川島様と担当者の田中様、そして事業委託先である「有限会社あい」会長の松井様と補佐役の亀山様に取材してきました。〔令和 7 年 6 月 8 日取材〕

『はたけサロン』の事業は、いつから実施しているんですか？

市担当係長 『はたけサロン』は、令和元年度から開始し、今年度で7年目に入ります。

どんな方が参加されていますか？

市担当係長 各務原市にお住まいの65歳以上の高齢者を対象としています。中には、認知症のある方やそのご家族も参加しています。

市担当者 最高齢の参加者さんは84歳の方なのですが、とてもお元気で、毎週自転車に乗って20~30分程かけて、はたけサロンに参加されています。お話しすることが大好きで、こちらが元気を分けてもらっているんですよ。

また認知症の旦那様と一緒に参加されている奥様は、「家から出かける良い機会になっていて、気分転換になるわ。」と喜んでおられます。

市担当係長 社会福祉協議会や地域包括支援センターの職員さん達は、関わりがある方がサロンに参加されていることもあり、業務外にもかかわらず協力して下さるありがたい存在です。

市担当者 各務原市には市の認定認知症カフェがいくつかあるのですが、そのうちの1つにエーザイ株式会社の「くすり博物館オレンジカフェ【※】」があります。そこを運営されている方は「自分のところの認知症カフェの方向性や取り組みを考えていく上で、『はたけサロン』の活動はためになるから。」と参加されています。

市担当係長 それと、協力者の方がご家族で参加されることもあり、お子さん達の笑い声は会員さん達を笑顔にしてくれています。

【※】「くすり博物館オレンジカフェ」は、エーザイ株式会社川島工園内にある内藤記念くすり博物館が開設している認知症カフェのことです。

具体的にどのような活動をしていますか？

市担当者 基本的に毎週日曜日の朝8時に集まって1時間ほど農作業をし、その後は茶話会をしています。

ただ夏は熱中症が心配なので、涼しい時間帯に農作業を終えた方がよいこともあり、7時から活動を開始し、休憩回数も増やしています。

事業の受託者 時には収穫した野菜を調理して、食事会や焼き芋を楽しむこともあります。

また参加者さんの誕生日には赤飯ケーキ等、ちょっとしたものを御用意して、お誕生日会を開催しているんですよ。

特に一人暮らしをされている参加者さんは「おめでとう」と言葉をかけてもらえることをとても喜んでくださっています。

事業の受託者 私達の『はたけサロン』には、合言葉があるんです。

一日に ・1杯の水を飲みましょう
・10人の人と話しましょう
・100文字書きましょう
・1000文字読みましょう
・10000歩歩きましょう

実際にこの合言葉どおりにできなくても構わなくて、これを目標として近づけようとすることが大切なんです。

そのため『はたけサロン』では、みんなで活動を始める前におしゃべりしながらコーヒーを飲み、おしゃべりしながら農作業で体を動かし、作業後にはまたお茶を飲みながら楽しくおしゃべりする時間を設けています。

そして活動が終わって帰宅してからは、活動レポートに書くことを習慣にもらって、次に参加する時にはそのレポートを持ってきていただいているんです。その日あった出来事を思い出して文字にして書き起こすという作業が、頭を活性化させるんですよ。

『はたけサロン』は屋外での活動ですが、雨天時にはどうされるのでしょうか？

市担当者 少々の雨であれば合羽を着て、いつもどおり農作業も行っています。

強い雨が降っている日には、農作業はお休みしますが、タープを張って雨を凌ぎ、茶話会は開催しています。

事業の受託者 みなさん、お話をすることが大好きなので、雨の日でも出席率が高いんですよ。

市内2ヶ所に畑があるとのことですが、それぞれの場所で活動グループがあるのですか？

市担当者 蘇原地区と鶴沼地区の2ヶ所に畑がありますが、2つのグループに分かれているわけではありません。

参加者は15名程おり、各々のご都合や体調に合わせてご参加いただいています。

事業の受託者 前もってどちらの畑で活動をするのかの予定は立てていますが、生育状況を確認して最終決定しているんですよ。

生育状況を見てから、大勢の会員さん達に連絡を取るのは大変ではないですか？

事業の受託者 参加者さん達にはLINE登録をいただいているんです。

なので、活動予定に変更等があれば、LINEで一斉送信してお知らせできるた

め大変ではありません。

LINE アプリの設定こそ一緒に行いましたが、その後はみなさん問題なく活用されていますよ。

事業を継続してきた中での思い出話がありますか？

事業の受託者 事業を始めるにあたって、場所選びが大変でした。

田舎だからといって路上駐車をしていいというわけにはいかないでしょう？

多くの車を停めることができる駐車場付きの畑を準備するというのが 1 番大きな課題でした。

事業の受託者 コロナ禍には、どうしたらよいかを悩みましたね。

当初は外出自粛の徹底が叫ばれ、その後、感染者数が落ち着いてくるとソーシャルディスタンスを考慮した上での行動が求められましたよね。

フレイル予防の観点から、高齢者の身体活動や社会活動を制限するのは良くないのですが、高齢者の感染リスクを考えると感染者数が少々収束したからといって、自粛明け期間であってもおいそれと参加者さん達を集めて活動をするわけにもいかず、事業停止する他ありませんでした。

その一方で農作物はその間も成長しますし、市から事業再開の指示をいただいた時に畑が荒れていてはいけないので、私達は受託者として事業再開を祈りながら畑のお世話を続け、季節が変われば次の作付けをしました。

そんな状況の中で、自粛明け期間中には多くの参加者さんが自主的に畑に来て農作業をしてくださったのが思い出深いですし、今またこのように活動を再開できたことが大変嬉しいです。

今後、この事業をどうしていきたいですか？

市担当者 毎週日曜日の定期活動に加え、新しい参加者を募集するための『はたけサロン体験会』を開催しています。

新規の方が増えて、この事業を永く続けることができたらいいなと考えています。

市担当係長 「農作業を通じたフレイル予防の集いの場」となるよう、より一層、力を入れていきたいと考えています。

(令和 7 年 6 月 8 日に開催された『はたけサロン体験会』の様子については、別記事がありますので、ご一読ください。)

<参考>

○国の農福連携担当窓口公式ホームページ

- ・農林水産省公式ホームページ 農福連携の推進

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/index.html>

- ・東海農政局公式ホームページ(各務原市の『はたけサロン』の紹介動画掲載あり)

https://www.maff.go.jp/tokai/noson/toshinou/noufuku/torikumi_douga.html

- ・一般社団法人 日本基金公式ホームページ 『ノウフク WEB』(各務原市の『はたけサロン』の紹介動画掲載あり)

<https://noufuku.jp/news/info-20240224/>

○岐阜県の農福連携担当窓口公式ホームページ

- ・岐阜県公式ホームページ(農業経営課担い手対策室・就農支援係)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/169890.html>

- ・岐阜県公式ホームページ(障害福祉課社会参加推進係)

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/167618.html>

- ・一般社団法人 岐阜県農畜産公社公式ホームページ(ぎふ農福連携推進センター)

https://www.gifu-notiku.com/renkei_syogaisyanou.php

○各務原市の農福連携担当窓口

- ・各務原市公式ホームページ(健康づくり推進課)

①農福連携

<https://www.city.kakamigahara.lg.jp/kenkofukushi/koureisha/1009249/index.html>

②はたけサロン

<https://www.city.kakamigahara.lg.jp/kenkofukushi/koureisha/1009249/1017268/1017272.html>

<出典元>

- ・農福連携ガイドブック(農林水産省)

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/noufuku/attach/pdf/pamphlet-11.pdf>

- ・高齢者の農福連携と広義の農福連携へ展開～ゆるやか農業、農的活動のすすめススム～(一般社団法人JA共済総合研究)

<https://www.jkri.or.jp/PDF/2022/bet8-hamada.pdf>

- ・農業で健康寿命～農福連携がもたらすさまざまな社会的影響～(農畜産業振興機構)

https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_002345.html